

つなぐ



諫早市立大草小学校
特別支援教育
コーディネーターだより
H30.6.28 No.11
文責 林田

☺ 教育週間が終わりました ☺

大草小学校の教育週間が終わりました。たくさんの保護者並びに地域の皆様にご来校いただき、感謝申し上げます。

子どもたちは、おうちの方がいらっしゃるとがぜん張り切ります。そして、子どもたちが伸びるのは、やはり、お父さんやお母さんに褒めてもらった時だろうないつも感じます。

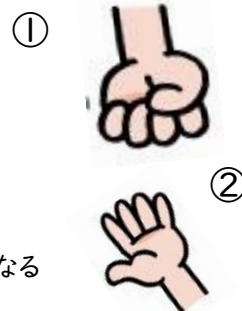
さて、前号で「物の名前と平仮名がうまく結びつかない子」に対する支援の例をご紹介しました。他にもたくさんの方法がありますが、ちょっとお休みして、今回は、ご家庭でもできる「**集中力を高める方法**」と、数の計算の基礎となる「**合わせて10になる数のペアの理解**」に関する支援の例をご紹介します。



【集中力を高める方法の例】 あと出しじゃんけん

《やり方》

- ①お父さん(又はお母さん)が、「あと出しじゃんけん、じゃんけんポン。」と言いながら、「グー」「チョキ」「パー」のいずれかを出す。
- ②子どもは、お父さん(お母さん)が手を出した後を追いかけるようにして「じゃんけんポン。」と言いながら、お父さん(お母さん)出した手に勝つ手を出す。
- ③慣れてきたら、「次は、お父さん(お母さん)に負けるように手を出してね。」「今度はあいこになるようにね。」と条件を変えてやってみる。



普通のじゃんけんは、2人以上で「じゃんけんポン」の掛け声と同時に手を出しますが、「あと出しじゃんけん」は、一人が先に出し、残りの人は出された手を見て考えて自分の手を出さなければなりません。

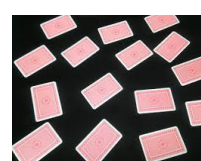
つまり、相手の手をよく見る(集中する)必要が生じます。「勝つ手」を出すのは比較的簡単ですが、「負ける手」を出すのは少しレベルが上がります。

また、「あいこになる手を出してね。」という条件で、子どもがちゃんと出せた時は、「お父さん(お母さん)と心がつながってるね。」と一言言ってあげるだけで、親子の信頼関係も深まるかも。☺

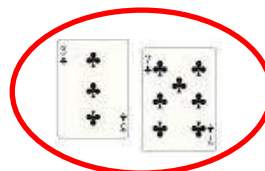
「合わせて10になる数のペアの理解」 10になる神経衰弱ゲーム

《やり方》

- ①トランプの1~9までのカード1組を裏返しにして置く。
- ②1枚めくり、2枚目と合わせて「10」になったらカードをもらうことができる。「10」にならなかったら、カードを裏返し交代する。「5」のカードが出たら、無条件でもらえる。(5と5で10なのでラッキーカード)
- ③慣れてきたら、カードの枚数を2組(18枚)、3組(27枚)、4組(36枚)に増やしてゲームを行う。(カードの枚数が増えた場合は、5もペアにできるので、もう1枚めくらせ、2枚そろうようにしてもよい。)



さんねん。
裏返しに。



おめでとう！

子どもたちが好むトランプを使った簡単なゲームです。遊びながら、自然と10になる数のペアを覚えることができます。「合わせて10になる」という条件を、1のカードを除いて「合わせて11になる」というように変えることもできます。

このように、遊びを取り入れながら子どもたちの能力を高めることができます。また、ゲームを通して、「ルールを守る」ことも学ぶことができます。